

平成25年度「キャリアデザイン」実践報告

「キャリアデザイン」委員会 塗田佳枝 阪本康之 石田光枝 北原立朗
鈴木愛梨 久保美由紀 中井 毅 金城幸廣
岡 聖美 本弓康之 高良正輝 安達昌宏

「キャリアデザイン」が開発されて3年目となる本年は、前年度までの講座制を廃止し、テーマ設定から調査・まとめまで1年間かけて取り組ませた。またファイルでなく、市販の手帳を使って自己管理を行わせた。生徒の自己評価やふりかえりの記述からは、ある程度の成果を認めることができる。一方でレポート作成や発表の指導内容・方法や、評価については課題が残る。

キーワード：学びのスキル ソーシャル・スキル マネジメント・スキル 「知る・考える・伝える」
興味・関心

1. はじめに

1年次必修科目「キャリアデザイン」は、平成23年度から始まった総合学科第3期の教育課程で開発された科目である。本校では各種活動について3年を単位として総括し、見直している。3年目となる本年は完成年度にあたるため、これまでの2年間の実践を踏まえ、課題として挙げられた点を改良すべく実施計画を立てた。本稿では前年度までの実践を概観し、本年度の取り組み及び成果と課題について述べる。

2. 前年度までの「キャリアデザイン」

2.1. 設置の経緯

新教育課程の編成にあたって、1・2年次では土曜日授業が設定された。土曜日の時間の使い方について学校が魅力ある案を示し、生徒の学習意欲を喚起する、平日の授業時間を7時間から6時間に減らし、ゆとりのある学校の生活時間を確保するという二点が主な理由である。

本校の『研究紀要』第49集によれば、1年次の土曜授業は「通常の授業展開では難しい『少人数授業』を実現し、『学ぶ楽しさ』を生徒に実感させるとともに、総合学科における学びのスキルを獲得させ、中高接続をスムーズにおこなうこと」を基本理念として構想された。上記の「少人数授業」について、もう一つの必修科目である「産業社会と人間」は、1年次の担任・副担任の8名が担当し、クラスや年次を単位として授業を展開している。しかし本科目では、担任団に年次外の4名を加えた12名の教員が全クラス混合の13～14名を担当し、一学期間を通して「丁寧に面倒をみていく」点が異なる。ま

た授業時間は少ないものの、授業時に提出させる毎日の記録を確認し助言する等、新たにスタートした高校生活を支援する役割も求められた。

2.2. 平成23年度の概要

(1) 目標

『スキルの獲得』を生徒に意識的に伝えることをめざし、以下の三点が目標として掲げられた。

- (ア) 本校での学びを進めるための基礎力（学びのスキル）を身につける。
- (イ) 場面に応じた行動を取る能力（ソーシャル・スキル）を身につける。
- (ウ) 自己の生活をコントロールできる能力（マネジメント・スキル）を身につける。

(2) 開講形態

- (ア) 各月偶数週の土曜日、8:40～11:20（10分間の休憩を挟む1～3限）
- (イ) 担当者：12名（各13～14名の生徒を担当し、学期ごとに担当生徒を替える）
- (ウ) 担当者は事前に授業計画を提出（A4用紙1枚程度、書式は固定）
- (エ) 第1回授業までに、①授業計画配布・希望調査（生徒は授業計画を見て希望する講座を選ぶ）、②調整後、参加講座を発表する。

(3) 授業の流れ

学期ごとに、以下の手順で行う。

[0]アイスブレイク

- [1]「知る（調べる）」講義・文献調査・ビデオ視聴等を通して、テーマについての知識・理解を深める。
- [2]「考える（整理する・まとめる）」ディスカッション・アンケート調査・インタビュー活動などを通して、テーマについてより深く考察する。
- [3]「発表する（伝える・発信する）」考察したことについてレポートを作成し、班内で発表活動を行う。また、他者の発表を聞き評価する。
- [4]「批評する（評価する）」自己評価や相互評価活動によって、パフォーマンスや作品を客観的に評価したり他者との論戦を通して完成度を高めたりして、今後の方向性を考える契機とする。

上記のうち「知る」「考える」「発表する」の3ステップは、学期ごとに必ず盛り込むこととされた。つまり生徒は、興味のある講座を学期ごとに3回選択し、それぞれ3ステップを体験することとなる。以下、目標と3ステップによる「授業の構成要素」を示しておく。

	(ア)学びのスキル	(イ)ソーシャル・スキル
①知る	・文献を探す（図書館の利用など）	・人の話を聞くとき適切な態度をとる。
	・講義を聞く	・不明な点について質問する
	・知った内容をまとめて記録する	
②考える	・調査のしかたを身につける	・依頼のしかた・職員室でのマナーなどを身につける
	・問題解決の方法を提案する	・ディスカッションへの参加のしかたを身につける
	・他者と意見を交換する	
	・他者の意見と自分の意見を区別する	
③発表する	・レポートのまとめ方を身につける	・適切な体裁・文体でレポートを書く
	・効果的な発表のしかたを身につける	・発表時のマナーを身につける
	・他者の発表を評価する	・評価を受け止める態度を持つ
	・他者の発表に対し質問する	・質疑応答のマナーを身につける
(ウ)マネージメント・スキル		
・「つくさかノート」の使用（記入・チェック）を通じて、自分の学習活動の状況を見つめ、やるべきことに取り組んでいるかを確認する作業を継続的に行い、自律的に学習活動を行う能力を高める		

(4) 評価

評価項目は①授業の記録、②レポート、③発表、④参加態度、⑤キャリアデザインファイル（生活の記録）であり、各班の平均が5段階で4.0になるように調整した。

2.3. 平成24年度の概要

2年目となる平成24年度も初年度と同様に、担当者の問題意識を題材とした講座選択制のゼミ学習を行った。ただし科目の目標や形態については多少変更されている。

(1) 目標

まず科目名でもある「キャリアデザイン」を、自己実現という「遠い未来」を見据えてどのように生きていくかを考え、計画することと定義し、そのための基礎力を身につけることを主目標に設定している。続いて前年度の目標（ア）学びのスキル、（イ）ソーシャル・スキル、（ウ）マネージメント・スキルと照らし合わせ、（ア）を（ア'）「学びを継続する力」と解釈し、（ウ）もその中に含めて1週間の記録を毎週提出させることとした。（イ）については教育全般の目標であるため、そこに止まらない発展的な目標として（イ'）「問題意識を共有し、仲間を増やし、問題解決の可能性を高める力」を設定した。さらにキャリア形成において問題解決の前提となる問題発見は不可欠との視点から（ウ'）「問題発見力の伸長」を新たな目標として加えている。

このように、初年度はスキルの獲得が目指されたが、2年目は「自らのキャリアをデザイン」するという科目名にふさわしい目標として力や姿勢の育成が設定された。つまり、その後のキャリアを形成するための学ぶ土台をつくることに重点が置かれていると言える。

(2) 授業の流れ

上記の目標を踏まえて設定した学期ごとの単元と目標は、以下ようになる。

【1学期】「学び」の基礎を確立する〈目標：自律的学習の習慣を身につける〉

【2学期】「学び」の楽しさを知る〈論理的なものの考え方の基礎を身につける〉

【3学期】「学び」の成果を発信する〈発表の仕方、聞き方の基本を身につける〉

前年度は「知る・考える・発表する」の3ステップを学期ごとに設定していたが、当年度は1学期はレポート作成のみで、2学期に初めて発表を行っている。また前年度の担当者から、3学期は入試や行事等で授業時間が確保できず、1・2学期と同様のゼミ学習を行うのは厳しいとの申し送りがあったため、ゼミ学習は2学期までの2回とし、3学期は活動報告会を行っている。

2.4. 成果と課題

平成23年度については、本校『研究紀要』第49集の

実践報告で各担当者が成果と課題を述べているので、以下にまとめておく。

[成果]

- a 与えられる情報の中から自らの意志で必要なものを読み取っていく視点を学ぶことができた。
- b ある人々が抱える困難について、社会をどのように改善していくかを考える機会を持たせることができた。
- c 各自、範囲は狭いが問題解決への理解が進み、自己判断力が養成された。また他者の発表を通じてさらに検証結果を共有することができた。
- d わかりやすく、工夫を凝らした発表ができた。
- e 自分の目で見るとの必要性や行動力の大切さは、今後の本校での学習に生かされるだろう。
- f 実際に調査することで、データの確実性・不確実性を理解することができた。
- g 工場を見学し、設計や製造、営業などそれぞれの部門の有用性を実感できた。生徒たちは熱心に見学し、積極的に質問していた。これは、今後の進路選択や科目選択にもつながっていく。
- h 知的な好奇心を持たせ、活動を通して少しずつ調べ方や発表、レポートの書き方を身につけるには有効な授業である。

[課題]

- i 文献選びから検証方法までしっかり指導し、深い考察をさせなければならない。
- j 時間が限られていたためインターネットのみを利用する傾向があり、同じような発表内容になってしまった。質疑応答が進まなかった理由の一因であろう。
- k 自分の意見の構築を何を根拠に行うかという姿勢が甘い。多種の資料を収集すべきだが、ホームページからの情報がほとんどであり、指導が必要である。
- l レポートが分かりにくい。まとめ方の指導の時間を十分に取るべきだった。
- m 発表は資料の読み上げる生徒が多かったので、発表方法の指導を十分行うこと、レポートと発表の違いを明確に意識させることが重要である。
- n 他者の発表に対して批判的に視聴する態度がなく、質疑応答が活発に行われなかった。
- o (障害理解のテーマで) 今回は文献や VTR での学習になったが、実際に交流する機会があればさらに学びを深めることができた。
- p 見学の事前指導を丁寧に行う時間があれば、さらに多くの収穫が得られたように思う。
- q 時間不足で割愛した活動があったり、時間外の活動を

課さなければならなかったりした。

当年度の担当者は、生徒の知的な好奇心を元に(h)、自ら情報を収集したり(a)見学やフィールドワークを行うことで(fg)、調査やレポート作成、発表の方法を知り(dh)、判断力や問題解決に向かう姿勢を育むことができる(bc)ことに本科目の意義を認めている。反面、情報収集の方法(ijk)、レポート作成や発表、質疑応答については課題が多い(lmn)。また、学期に5回の活動時間で調査、レポート作成、発表という一連の学習を行うには、時間が不足していることもうかがえる(opq)。加えて、パソコン室や特別教室に設置されたコンピュータは120台程度であり、1学年160名、活動日によっては2学年分320名確保できないというハード面の問題も指摘されている。

平成24年度は、生徒の学期ごとの自己評価を検証する中で、肯定率が高かった項目には情報の整理・義務の遂行・学び方考え方・横断的学習・探求的学習・解決への協働があり、科目の目標(ア') (イ') (ウ') で示した三つの力には妥当性があったと結論づけている。一方で、肯定率が特に低かったのがキャリア意識であり、三つの力に含まれる個々の項目については身につけられた実感があるが、それらを自らのキャリア形成に応用可能なものとして捉えられていない点を問題視している。

さらに、本校において本科目の果たす役割についても述べている。第2期の教育課程では1年次の必修科目として「産業社会と人間」「産業理解」の計4単位があり、自己理解・社会理解を通して自らの生き方を考えることが目指された。しかし今回の教育課程では「産業理解」がなくなり、社会について学ぶ機会や時間割作成・上級学校調査など進路に関する学習の時間数が減少している。このような経緯を踏まえ、『研究紀要』第50集所収の実践報告のまとめでは、本科目の今後について二つの方向性を示している。一方は「産業社会と人間」の補完科目として位置づけ、「産業理解」で目指された「産業や社会全般に対する見識を深める学び」を各講座に組み込むこと、他方は「産業社会と人間」と完全に分離し、「キャリア教育全体の中で、この科目独自の機能をより先鋭化させていく」ことである。

3. 本年度の「キャリアデザイン」

3.1. 基本構想

(1) 科目の位置づけ

過去2年の実践でハード面以外で主な課題として示されたのは、情報収集・分析、レポート作成や発表など調査の方法の指導が不十分であった点、「産業理解」の科目

がなくなり「産業社会と人間」だけで行うようになったキャリア意識の養成や社会理解に関する学習を本科目でも担う必要があるのではないかとこの点である。この課題の解決に向けて、平成25年度1年次担任団では、本科目だけでなく1年次で履修する科目全体すなわち「国語総合」や「数学Ⅰ」などの普通教科、「産業社会と人間」、「キャリアデザイン」の役割を明確にすることにした。

まず、普通教科では、2年次以降の選択科目や進学後にもつながる基礎学力を身につける。「産業社会と人間」では、自ら動き、失敗から学ぶ活動を設定し、自己理解・社会理解・他者理解を図る。そして「キャリアデザイン」では、知り、考え、伝える活動を通して、学びのスキル・ソーシャルスキル・マネジメントスキルを身につけることとする。つまり、平成24年度に指摘された問題については「産業社会と人間」の内容を見直すことで対応し、「キャリアデザイン」では調査の基礎を学ぶことを第一義とするが、長期休みやLHRの時間も使いながら進路学習も適宜行うこととした。

これは、本校では3年次に「卒業研究」が課されていることとも大いに関係がある。「卒業研究」を見据え、2年次から始まる選択科目や2年次3学期の「総合的な学習の時間」の中で、レポート作成・発表、研究の進め方について一通りの指導が始まるが、3年次になってもテーマが決まらなかったり、進め方がわからなかったりする生徒が少なくない。中にはほぼwebページからの貼り付け、1行ごとに改行というレポートもある。そこで1年次生のうちに、調査の基礎を学ばせたいと考えたのである。

生徒たちは中学校までで何らかの調べ学習を体験してきたであろうが、レポートやパワーポイント資料の作成となると、学校ごとの差が大きい。よって、テーマ探しから各種調査やまとめまで方法を丁寧に指導し、時間をかけて取り組ませることとした。講座を学期ごとに選択するのではなく、1年を通して取り組む点が前年度までと大きく異なる点である。もっとも一応の完成は2学期末とし、レポート作成と発表を行わせる。3学期は班を替え、自分の調査内容や分野を知らない、もしくは興味がない生徒や教員にわかりやすく伝えることを目指して、2学期の内容を改良させる。言わば2学期の発表はリハーサルとしての位置づけであり、うまくできなかった生徒は少しでも手応えが得られるように、納得できる発表になった生徒はさらに工夫や深化が加えられるようになることを目指している。同時に、3学期に担当者を変えることで、生徒に一つの方法を絶対と思わせず、複

数の価値観に触れさせること、より広い目で指導や評価を行い、担当者による差を埋めることをねらっている。

他の異なる点としては、過去2年は担当者が手作りしていた生活の記録について、本年度は市販のスケジュール帳（能率手帳スコラ）を購入した点がある（資料③）。ここ2年間はA5、A4版の厚いファイルであり、学校に置いたまま1週間分まとめて書いて提出という生徒も見受けられた。B6版の「手帳」であれば、常に携帯し主体的に使用するのではないかと考えたためである。

(2) 目標

上記の構想に従って、初年度に設定された3つのスキル獲得という目標を今年度も踏襲した。以下の「●」は初回のガイダンスで生徒に伝えた内容、下線部は今年度加えた点であり、「・」は担当者間の共通理解とするべき内容を下位項目として示した。

(ア)本校での学びを進めるための基礎力（学びのスキルを身につける。

●2年次の学習、卒業研究までつながるよう試行錯誤しながら調査の基礎を学ぶ。

・テーマ決定、各種調査、レポート、発表、討議等の方法に関して、時間をかけて取り組む。

(イ)場面に応じた行動を取る能力（ソーシャル・スキル）を身につける。

●依頼、発表会など各場面における適切な態度を身につける。

(ウ)自己の生活をコントロールできる能力（マネジメント・スキル）を身につける。

●スケジュール帳を活用し、高校生活を主体的に管理する。

・テスト勉強の計画、学習時間等を記録し、学習習慣の定着をはかる。→各担当者はCDの時間に手帳をチェックし、当日中に返却する。

●高校卒業後の生き方を見据え、主体的に進路選択を行う素地を作る。

・上級学校見学や就職・進学に関する情報の収集方法を知ることを通して、必要な情報は自ら得ようとする。

・模試を受けるだけでなく、弱点を把握して学習計画を立てる。

・「卒業生と語る会」等で、他者の経験を自分の生き方を考える参考にする。→進路関係の活動については年次団8名で対応する。

(3) 年間計画

平成23年度は各学期で完結していた「知る・考える・発表する」の3ステップを、各学期に1ステップずつ配置することとした。2・3学期は、平成24年度の単元目標（考え方の基礎を身につける、発表・聞くの基本を身につける）に近い。以下、調査に関する内容だけを記しておく。進路関係の内容も含めた全体計画は資料①を参照されたい。「→」以降の下線部が今年度用いたステップの名称である。

【1学期】「知る（調べる）」→調査の基礎を知る

- ・自分の興味のある分野を知る（テーマを考える。複数の文献を調べる。様々な調査方法を知る。レポートの書き方を知る。

[課題：調査報告書（調査内容）]

【2学期】「考える（整理する・まとめる）」

→レポートにまとめる・発表する

- ・テーマを決める。調査のまとめ方、発表方法を知る。発表時のマナーを身につける。聞くだけでなく疑問・意見を持つ。

[レポート①（調査内容+考察）] [発表①]

【3学期】「発表する（伝える・発信する）」「批評する（評価する）」→他者に伝える・意見を言い合う

- ・班を替える。
- ・2学期の内容を修正・補足し、完成させる。

[レポート②] [発表②]

(3) 班編制の方法

テーマ自体を生徒に考えさせるため機械的に振り分けでもよかったが、同じような興味を持った生徒が集まったほうが生徒も担当教員も進めやすいとの意見により、選択制にした。そこで、担当者の得意分野（指導できる内容）を3～5項目挙げてもらい、希望調査票を作成した（資料②）。なお、担当者が挙げる項目が多岐に渡ると生徒の興味も分かれるため、フィールドワークで同じ施設に連れて行けなくなることが懸念されたが、特定の施設を見学させる構想がある場合は事前に提出する分野をある程度狭めておくことで対処することにした。調査の結果、第3希望になった生徒が数名いたが、概ね第2希望までに収めることができた。3学期は、1・2学期の班員、男女比が均等になるように振り分けた。

(4) 評価

当初は各班で平均が5段階中4.0程度になるよう調整する予定であったが、担当生徒の差が大きいため、年次

全体で平均して4.0を目指すことにした。主な評価項目は①毎時の活動記録・参加態度、②調査報告書、③手帳の記入状況であり、2・3学期は④発表を加えて、それぞれ5段階で評価する。他に、夏休み中の宿題である大学のオープンキャンパスレポートや3年次生の卒業研究発表会見学レポートは担当が評価した。

3.2. 実施上の検討事項

ここでは、授業の準備段階や開始後にあがった事項を中心に記しておく。

(1) 共通指導事項と担当者の裁量のバランス

準備段階で共通指導事項として以下の三点を決め、それ以外の指導事項（アイデアの出し方、調べ方等）については、担当者が必要に応じて指導した。

- a テーマを与えるのではなく、生徒自身で決定させる（ことを支援する）。
- b 複数の資料から考察させる（webページのみでなく複数の種類の情報を調べる）。
- c レポートの基本的な書き方（体裁、引用のルール等）を理解させる。

aのテーマについては、班で共通の大テーマを作った上で個人のテーマを設定しても、班員それぞれが異なるテーマにしてもよく、班の顔合わせの際に班員の意向を聞いて決めることとした。実際には、個々のテーマを設定した班が多かった。

bでは、webページの情報を鵜呑みにしたり本を全く読まなかったりする生徒も少なくない現状において、書籍にあたらせたいという思いが各担当者の問題意識としてあった。そこで、1学期は興味のある分野の本を最低一冊読み、内容をまとめるブックレポートも可とした。cのレポートの書き方は、共通の資料を本科目の担当責任者が作成し、各担当者はそれを元に生徒に指導した。

また担当者12名の打ち合わせは、年次外の担当者もいて時間が合わせにくいこと、同じゼミ学習である「卒業研究」も毎週打ち合わせの時間は取っていないことから主に校内メールを用い、成績を調整したり次学期の内容を協議したりする学期末など必要な場合のみ集まることにした。担当者の意見が聞きたい場合は年次会で原案を示し検討した後に、メールで協議した。

(2) 校外での活動、施設の利用

授業日の校外活動は、個人で調査に出る、班単位で施設見学やフィールドワークに出ることは認めるが、市立図書館に資料を探しに行くことは不可とした。

PCの確保については、PCのある特別教室が活動場所である3班を除いた9班は、班を2グループに分け、2部屋あるPC室を前後半で使用した。PCを使えない時間は資料の読み込みや担当教員との面談、発表の練習などに充てた。1・2学期のレポートの作成日は科目選択の予備調査・本調査の提出日が近く、担当者12名でほぼ全教科を網羅していたため、時間割作成を相談しに行くことを認めたところ、多くの生徒がガイダンスブックを手に興味のある教科の担当者を尋ねていた。

(3) 手帳の提出不良者への指導

授業が進んだ2学期に問題となったのが、手帳の提出状況が良くない生徒への対応である。そこで2学期末に提出回数が半分以下だった生徒を一堂に集めて、担任団で指導を行った。その際は内容の充足度を高めることより、1項目でもよいから記入し継続して提出させることに重点を置いた。同様の指導は3学期にも行った。

3.3 成果と課題

ここでは今年度大きく変更した点、すなわち学期ごとの講座制でなく1年かけて調査・発表・レポート作成に取り組みさせた点、調査が一応終了した段階で発表・レポート作成を2回行わせた点を中心に、生徒の自己評価や担当者の意見から、成果と課題を述べていく。

(1) 継続アンケートより

1年次担任団では生徒が入学する前に、3年間で身につけさせたい能力や姿勢15項目を決定し、入学前と各学期末にアンケートを実施している。主体性、協働、知的好奇心等に関する各項目について「4: そう思う」「3: ややそう思う」「2: あまりそうは思わない」「1: そうは思わない」の4段階で回答させ、さらに4・3の肯定的回答を選択した者には、その力や姿勢が学校生活のどの活動や場面(例:「産業社会と人間」の職場体験、部活動など当学期に行われた活動)で特に発揮されたか、あるいは身についたかを複数回答で聞いた。資料④(1)では質問項目、4・3の回答数と肯定率、1~3学期の結果では本科目の選択率も加えて示している。

この中で本科目に特に関係が深い「多様性・知的好奇心」「論理性」「自己形成」に関する項目(7~14)に関しては、1学期から2学期にかけて肯定率が伸び、3学期はほぼ横ばいの状態であることがうかがえる。

2学期に肯定率が10%以上伸びた項目は、問題発見(10: 項目、以下同じ)、情報の収集と分析(11)、レポート作成(12)、発表(13)である。特に2学期に初めて行った

発表では、肯定的な回答をした者のうち87%が本科目を選択している。また肯定率にはそれほど変化がないが本科目の選択が増えたものとして、コミュニケーションに関わる項目(5・6)がある。調べた内容を意見と捉えているきらいもあるが、2学期に本格的な発表と質疑を体験したことで、発表に関して手応えを得たのではないかと。

3学期は2学期と大差がないか、減少傾向にある。この理由としては、3学期の発表やレポートは2学期のそれを改良すればよく、活動時間も少なかったため、追加の調査をしていない者が大多数であったことがあげられる。このような状況下で、積極的に調査する行動力(9)は肯定率は大きく下がったが、本科目の選択率には変化がない。よって、テーマを変更して最初から調査した者、インタビューやフィールドワークを行って考察を深めた者の自己評価が高かったと考えられる。

前述の通り、事前アンケートで50%に満たなかった問題発見(10)、レポート作成(12)、発表(13)は年間を通じて向上したが、計画性(14)については高校入試後の4月が一番高い。1学期に大きく落ち込み、3学期には入学前の状態まで戻りつつある。2年次以降、移動教室での授業や課されるレポート類が増え、スケジュール管理がより重要になってくるため、次年度以降も継続して指導していく必要がある。

(2) 年度末アンケートより

調査の活動としては最終日にあたる1月25日に、本科目の目標である学びのスキル、ソーシャル・スキル、マネジメント・スキルをどの程度身に付けられたかを計るため、生徒に自己評価を行わせた。18の項目について、「4: よくできた」「3: まあできた」「2: あまりできなかった」「1: 全くできなかった」の4段階で回答させ、平均値を算出した。質問内容は平成23年度に実施したアンケートをほぼ踏襲したが(資料④(2))、講義を行っていないため、「②講義等で学んだ内容をきちんと記録できたか」を削除し、「⑦身の回りや社会・世界に興味や疑問を持つ等、視野が広がったか」を加えた。

平成23年度と比べると、課題の考察・解決や積極的な質疑応答の項目で本年度の平均値の高さが目立つ。平成23年度1年次生が2年次1学期に行った総合的学習に関するアンケートの同項目と合わせて、以下に記す。

	H25	H23(1年)	H24(2年)
④課題の考察・解決	3.23	2.89	3.02
⑩積極的な質問	2.77	2.24	2.43
⑮適切な応答	3.01	2.59	2.69

もっとも平成 23 年度は学期ごとに講座制の授業を行っていた点、アンケート実施時期が1学期の講座終了時である点、そして何より回答した生徒が異なる点などから、単純な比較はできない。しかし、平成 24 年度1学期の「総合的な学習の時間」も学期限定の講座制で展開していた点から考えると、「卒業研究」のように自分自身で選んだテーマに時間をかけて取り組むこと、同じテーマによるレポート作成と発表、討議を複数回体験させることには有効性が認められよう。このことは自己評価とあわせて行った振り返りからも、うかがえる。ふりかえりは(1)活動に対する自己評価、(2)「キャリアデザイン」の授業で苦労したこと、(3)「キャリアデザイン」をやってみて感じる自分の変化、(4)授業運営等に対する意見や要望の4項目を自由記述で書かせた。関連する記述を以下に示す。

・最初は自分の興味のあることから出発しても何で調べ、どのように考えればいいのかよく分かりませんでした。しかし3学期間続けることで、自ら問題を探し、解決することができるようになったと思います。(女)

・1学期のテーマ決めから始まり、2学期の途中まで本で調べたりして自分で何かをするということをあまりしてこなかったけど、3学期はアンケートを取ったり実際に現地に行ってみたりと自分から行動できるようになり、1、2学期とは違ったことを発見できるようになった。(女)

・2学期に発表があった時は説明が下手でゴチャゴチャしてしまいわかりづらかったと思ったので、3学期は心がけてわかりやすい説明が出来ました。(男)

・始める以前では緊張してろくな発表もできなかったのですが、今では普通に自分の言葉でしゃべれるようになり、質問の返しもできるようになりました。(男)

・相手の発表を聞いて、考えて質問するようになった。(男)

・何かに対して自分の意見を持つことはあっても、それをうまく人に伝えて共有することがなかなかできなかったので、今回の発表や質問などで自分の考えを表現できるようになったことは大きい。(女)

・最初に似た興味の人で集まって、次にバラバラの中で発表というのが楽しかったです。他の人の発表も聞けて視野が広がりました。(女)

(3) 担当者より

授業終了後、担当者に今年度の取り組みや昨年度までと比べて良かった点、問題になった点、改善すべき点を自由記述で挙げてもらった。

[成果]

・テーマ設定・調査、レポート作成、発表を早いうちに体験できた。特に発表では自分の発表だけでなく、他者の発表について意見や感想を述べるのが重要であることを何回か話すことができた。

・「卒業研究」は遠いものではなく、今からつながっていることを実感させられた。

・1週間の記録を用紙でなく手帳にしたのは良かった。

[課題]

・生徒の公欠や教員の出張が多く、指導が途切れる。

・3学期でメンバーが替わるとレポートや発表が改善されているかがわからない。

・レポートの書き方や添削指導は担当者によって差があるため、全体指導にしてもよい。

・当初のキーワードを持続させられなかった。webだけで調べた生徒もいた。

・PCが全員分確保できず、利用時間が班によって違う。特別教室使用のマナーが悪い。

・手帳の個人情報をごくまで共有すべきか。

このうち、レポートの書き方・調査の進め方などの共通指導事項については、「卒業研究」でも問題になることである。10名以上の教員でゼミ式授業を行う場合、どうしても担当者によって差が出てしまう。前述の生徒のふりかえりでも、以下のような要望があった。

・もう少しレポートのお手本を見せてほしい。言葉だけでは伝わらない部分もあるし、パソコンでレポートを書くのが初めてだったので何かお手本となるものを見せてほしい。(女)

・人前で発表する時の話し方やPPTの操作の仕方、上手なPPTの作り方など社会に出た時に必要になってくると思うので、詳しく教えてほしい。(男)

・発表の前に注意点を言ってほしい。改善点を生かす場がほしい。(女)

1学期にレポートの書き方に関する共通資料を配付したが、構成の型までしか載せなかった。レポートや発表については、国語科や情報科と連携しながら、1年次のうちに基礎的な事項を身に付けさせることが必要であろう。

また共通資料の利用方法は担当者に任せていた。担当者間の打ち合わせもメールで行っており、特に年次外の担当者は生徒の情報も少なく、共通認識が図りにくかったと思われる。さらに「卒業研究」も同様であるが、明文化された評価規準や判断基準がなく、評価を担当者の経験に頼っている点にも課題が残る。

最後に、自由記述の(4)で本科目でできなかったこと・次にやってみたいこととしては、アンケート、関連する

施設・企業への聞き取り調査、実物作成・実験、グループを作った共同研究などが見られた。書籍やwebで得た知識だけに満足せず、自分で実際に確かめようとする姿勢が出てきたことは頼もしい。次年度の「総合的な学習の時間」を計画する上での参考にしたい。

4. おわりに

全生徒のふりかえりを読むと、1年間の調査を終えて調べること、他者の発表を聞くこと、すなわち「知らないことを知る」楽しさを素直に表現している生徒が多いことに気づく。平成24年度「卒業研究」実践報告にある通り、「ほとんどの生徒が自分の中に興味関心または興味関心の芽を持って」おり、本科目の基本理念である学ぶ楽しさを実感しているのである。また、他の生徒の取り組みが良い刺激となっていることもうかがえる。

・やる前は「自分の好きなことを調べる」だけの科目だと思っていたが、やり始めると自分の好きなことを幹にして多くの枝をも調べて発表する科目だと思うようになった。筑坂はキャリアデザイン以外にも発表する場が多いので発表するのにだんだん慣れていっている感じがした。調べて発表して、質問されて更に調べるというサイクルが当たり前になった。(男)

・自分は趣味といったものが特になかったが、この授業により一つのことを集中して調べることができ、またその調べたテーマをしっかりと学ぶことができた。そして自分の好きなことにすることができた。(男)

・最初はなぜこんなレポートなんかやらないといけないなだと思っていました。しかしやっているうちに自分はどのようなことに興味があるかに気づくことができました。最後のほうは積極的に興味を持って自分から調べることができるようになりました。(男)

・最初のほうより、自分の興味がないことが楽しくなった。興味がないのは変わらないけど、いろんな分野のいろんな知識や考えを知るのが楽しかった。(女)

・筑坂は総合学科なので興味があること、気になること、そしてキャリアデザインのテーマも人それぞれです。ですから発表は本当に面白かったです。発表の回数を重ねるごとにみんなの発表のレベルが高まり、「私も頑張らなきゃ！」という気持ちになりました。発表のコツもわかってきました。(女)

・前の自分だったらわざわざ小学校でお世話になった先生のところに(インタビューのお願いに：筆者注)行くことなどしなかったと思う。それができるようになったのは周りのおかげだと思う。周りの子どもそれぞれ

れ自分で準備していたから、自分の中で多少の焦りと負けたくないという気持ちがあったのだと思う。(女)
さらに、3.1.で述べたように本年度は前年度まで課題とされたキャリア意識の養成については主目標とはしなかった。しかし、ふりかえりでは「将来の夢が変わった。ほかの人の意見をたくさん聞いてものの見方が変わった」「自分の将来を考えることができ、進路に興味を持つきっかけとなった」「自分の興味があることを調べることができた。だからすごい興味がわいたし、早く働きたいとも思った」との声があり、調査の前後で得た興味・関心が結果として自らのキャリアを考える手がかりとなっている点も興味深い。「キャリアデザイン第2期」が始まる次年度は、担当人数や内容が変更される予定である。本年度の目標に掲げたように「試行錯誤しながら」改良を加え、生徒のキャリア形成に資する科目をつくってきたい。

【参考・引用文献】

- 竹内義晴ほか(2012)「平成23年度『キャリアデザイン』実践報告」『筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要』第49集 pp.15-24
- 竹内義晴ほか(2013)「平成24年度『総合的な学習の時間』実践報告」『筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要』第50集 pp.19-38
- 平野延行ほか(2013)「平成24年度『キャリアデザイン』実践報告」『筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要』第50集 pp.9-18
- 本弓康之ほか(2013)「平成24年度『卒業研究』実践報告」『筑波大学附属坂戸高等学校 研究紀要』第50集 pp.39-56
- 筑波大学附属坂戸高等学校(2012)「第15回総合学科研究大会資料集」より「平成23年度『キャリアデザイン』実践報告」 pp.26-43
- 筑波大学附属坂戸高等学校(2013)「第16回総合学科研究大会資料集」より「平成24年度『キャリアデザイン』実践報告」 pp.21-27

【資料①】平成25年度「キャリアデザイン」年間計画

H25「キャリアデザイン」年間予定表				
1学期「調査の基礎を知る」				
日付	時間	項目	活動内容	備考
1 4月20日	1	R-CAP実施	自分を知る	
	2	科目ガイダンス	科目の目標と内容、担当者紹介	
	3	科目ガイダンス	希望調査、興味・関心・疑問点を書いてみる	
2 5月11日	1	班のアイスブレイク	自己紹介、班でのガイダンス	テーマ設定等に関して班の方針を決める
	2	テーマを考える	興味・疑問点からテーマの候補を考える	【1学期の学習項目例】
	3	テーマを考える		
3 5月25日	1	複数の資料で調べる	関連する本を読む、Webで調べる	アイデアの出し方(BS・マップ) 情報収集の方法 フィールドワーク、観察の方法 依頼の方法 情報の整理・保存の方法 情報の取捨選択・まとめの方法 引用のルール 複数資料の比較・考察
	2	複数の資料で調べる		
	3	複数の資料で調べる		
4 6月8日	1	複数の資料で調べる	調査報告書の作成に向けて	
	2	複数の資料で調べる		
	3	調査報告書の作成に向けて		
5 6月22日	1	調査報告書の作成	1学期に調べた内容をまとめる (1200字程度)	
	2	調査報告書の作成		
	3	調査報告書の作成		
6・7 7月11日	終日	上級学校バス見学会	上級学校を訪問し、進路意識の向上をはかる	
8 7月12日	PM	筑波大学工学情報系・講義	大学の先生や学生の講話を聞き、視野を広げる	
9・10 夏季休業中	終日	オープンキャンパス、受験科目調査	行き先の決定から受験の方法まで自分で調べる	
2学期「レポートにまとめる、発表する」				
日付	時間	項目	活動内容	備考
11 9月7日	AM	ベネッセテスト	学力や弱点を把握し、今後の学習計画に役立てる	*夏休みの活動報告
12 9月14日	1	テーマを決める	これまでの調査を元に、テーマを確定する	【2学期の学習項目例】
	2	テーマを決める	レポート(発表資料)の構成を考える	
	3	テーマを決める		
13 10月12日	1	調査・発表資料作成	発表会に向けて調査を行いながら資料を作る (締切10/18)	レポートの体裁を知る 引用と意見の区別(出典の明示) わかりやすい発表資料の条件 発表に必要な条件
	2	調査・発表資料作成		
	3	調査・発表資料作成		
14 10月26日	1	発表会	発表に慣れる、マナーを身につける 聞くだけでなく疑問・意見を持つ	
	2	発表会		
	3	発表会		
15 11月16日	1	レポート作成	今までの調査や発表資料を元にレポートを作成する (2000字程度。締切11/20)	
	2	レポート作成		
	3	レポート提出		
3学期「他者に伝える、意見を言い合う」				
日付	時間	項目	活動内容	備考
16 11月30日	1	新しい班の顔合わせ	自己紹介を兼ねたレポート報告会	*3学期の発表はレポートや原稿の読み上げにならないように。 *3学期は時間が少ないので冬休みを活用するなど計画的に。
	2	発表資料作成	発表資料の構成を考える	
	3	発表資料作成	2学期のレポートを元に資料を修正する(締切1/9)	
17 1月11日	1	発表会	2学期より良い発表を心がける それぞれの発表について討議する	*討議の時間を多く。発表は記録より感想・意見交換を重視。
	2	発表会		
	3	発表会		
18 1月25日	1	レポート修正	発表会のアドバイスを元に修正する (2000字以上。締切1/29)	
	2	レポート提出		
	3	キャリアデザインふりかえり		
19 2月1日	AM	進研模試	学力や弱点を把握し、今後の学習計画に役立てる	
20 2月15日	AM	卒業生と語る会	先輩の話を聞き、今後の高校生活に活かす	

【資料④】

(1) 継続アンケートの質問内容と結果

1	人に言われてでなく、自分で考え、判断することができた。	主体性(思考)
2	自分で決めたことを行動に移すことができた。	主体性(行動)
3	一度決めたら最後までやり遂げようと努力した。	主体性(態度)
4	他の人と協力し、助け合って活動することができた。	協働
5	他の人の意見や考えを理解し、尊重することができた。	協働(コミュニケーション)
6	自分の意見や考えを他の人に伝えることができた。	協働(コミュニケーション)
7	身の回りや社会・世界に興味や疑問を持つことができた。	多様性・知的好奇心
8	興味があることについて、本を読んだり自分で調べたりできた。	多様性・知的好奇心
9	興味があることについて、いろいろな人に話を聞いたり校外に出かけたりできた。	多様性・知的好奇心
10	様々な角度から物事を考え、自分なりに課題(問題点)を見つけることができた。	多様性・知的好奇心
11	必要な情報を探し集め、自分なりに分析することができた。	論理性
12	伝えたいことをわかりやすく(論理的に)文章にまとめることができた。	論理性
13	伝えたいことをわかりやすく(論理的に)発表することができた。	論理性
14	家庭学習や課題への取組など、ものごとを計画的に進めることができた。	自己形成
15	将来の夢や方向性を考えることができた。	自己形成

※なお、事前アンケートの文末表現は「～する・できるほうだ」で問うている。

項目	事前		1学期				2学期				3学期			
	4.3回答	肯定率	4.3回答	肯定率	CD回答	選択率	4.3回答	肯定率	CD回答	選択率	4.3回答	肯定率	CD回答	選択率
1	113	71%	121	76%	45	37%	118	74%	45	38%	112	70%	51	46%
2	130	81%	117	74%	41	35%	114	72%	48	42%	111	70%	45	41%
3	137	86%	129	81%	48	37%	122	77%	43	35%	131	82%	57	44%
4	143	89%	136	86%	24	18%	130	82%	22	17%	130	82%	14	11%
5	144	90%	128	81%	27	21%	135	85%	43	32%	125	79%	25	20%
6	92	58%	97	61%	27	28%	105	66%	48	46%	109	69%	41	38%
7	120	75%	113	71%	45	40%	124	78%	46	37%	109	69%	42	39%
8	118	74%	106	67%	76	72%	113	71%	86	76%	99	62%	76	77%
9	94	59%	79	50%	23	29%	82	52%	29	35%	56	35%	30	54%
10	44	28%	80	50%	32	40%	106	67%	49	46%	102	64%	50	49%
11	97	61%	107	67%	80	75%	130	82%	98	75%	113	71%	91	81%
12	55	34%	75	47%	66	88%	91	57%	73	80%	94	59%	62	66%
13	56	35%	46	29%	22	48%	77	48%	67	87%	87	55%	61	70%
14	72	45%	41	26%	18	44%	46	29%	17	37%	62	39%	27	44%
15	140	88%	132	83%	39	30%	139	87%	44	32%	134	84%	51	38%

(実施日と回答数…事前:4月2日160名、1学期:7月19日159名、2学期:11月29日159名、3学期:2月28日159名)

(2) 本年度と平成23年度の自己評価

		(H25)	質問内容	平均値	(H23)	質問内容	平均値
I 学 び の ス キ ル	知る	①	文献等、資料を適切に探せたか	3.27	文献等、資料を適切に探せたか	3.2	
		②	テーマ設定・調査・まとめという連の方法・技術が理解できたか	3.33	調査の仕方が身についたか	3.28	
		③	適切なテーマ(課題・問題点)を見つけることができたか	3.26	問題点(課題)を明らかにすることができたか	3.13	
		④	テーマ(課題・問題点)について自分なりに考察したり解決したりできたか	3.23	問題点(課題)を自ら解決できたか	2.89	
		⑤	他者と意見を交換できたか	2.83	他者と意見を交換できたか	3.02	
		⑥	自分の意見(考え)を持つことができたか	3.45	自分の意見(考え)を持つことができたか	3.46	
		⑦	身の回りや社会・世界に興味や疑問を持つ等、視野が広がったか	3.36	(該当なし)		
	発表する	⑧	レポートの内容を整理してまとめることができたか	3.19	レポートの内容を整理してまとめることができたか	3.04	
		⑨	効果的な発表の仕方が身についたか	2.95	効果的な発表の仕方が身についたか	2.91	
		⑩	他者の発表をよくきけたか	3.59	他者の発表をよくきけたか	3.55	
		⑪	発表内容に対して積極的に質問できたか	2.77	発表内容に対して積極的に質問できたか	2.24	
II ソ ー シ ヤ ル ・ ス キ ル	知る	⑫	人の話をきく際の態度は適切であったか	3.47	人の話をきく際の態度は適切であったか	3.35	
		⑬	必要に応じて、いろいろな人に質問したり校外で活動したりできたか	2.64	必要に応じて、外部の人に不明な点について質問できたか	2.51	
		⑭	依頼の仕方等、社会的なマナーが身についたか	2.95	依頼の仕方等、社会的なマナーが身についたか	3	
	発表する	⑮	適切な体裁・文体でレポートが書けたか	3.2	適切な体裁・文体でレポートが書けたか	3.12	
		⑯	発表時のマナー(声の大きさ、言葉遣い等)が適切であったか	3.08	発表時のマナー(声の大きさ、言葉遣い等)が適切であったか	3.16	
		⑰	他人の評価(意見)を受け入れることができたか	3.5	他人の評価(意見)を受け入れることができたか	3.47	
		⑱	他人の質問や疑問に適切に答えられたか	3.01	質疑応答がきちんとできたか	2.59	
III ス キ ル ・ メ ン ト ・ ジ ャ ー ナ ル	⑲	手帳を毎日記入できたか	2.92	学習活動の記録を毎日きちんと書けたか	2.79		
	⑳	記入にあたり、自分なりの工夫ができたか	2.84	記入にあたり、自分なりの工夫ができたか	2.72		
	㉑	手帳を自分の生活(の向上や見直し)に役立てることができたか	2.67	ノート(記録)を活用して自分の生活を豊かにできたか	2.56		

(平成26年1月26日実施、回答数155名)

(平成23年6月25日実施、回答数155名)